

(1)評価基準に沿った評価	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
(2)記述評価						
・「小学生のときに介入すべき」という根拠を示してほしい。「まとめ(今後に向けて)」は具体的に記述して欲しい。 ・成人への移行阻止について、寛解(outgrow)まで視野に入っているのか、あるいはもしそうなら可能にする介入方法を想定しているか。例えばダニが環境から減少すると喘息の改善に寄与する報告は、成人と小児の両方でみられている。掃除を週2回以上、フローリング、ふとんの丸洗いなどが勧められる背景・根拠となっている。 ・ダニIgE高値が喘息が短期間で寛解しないパラメーターとして有意であったとしても、それらの児にダニ対策を行えば短期間で寛解へ誘導できるという根拠がないままに、それが対策モデルであるとするなど、研究の緻密性に欠ける。 ・喫煙対策モデルの検討は是非、もっと力を入れて進めるべきである。 ・自然経過の重要な研究である。今回、多重ロジスティック解析では、父母や兄弟の喘息の要素は少ないとの結果であったが、今後その再現性についてフォローしたい。 ・「喫煙の害」についての教育を推進して欲しい。 ・長年の調査研究に基づく取り組みであり、評価できる。収集されたデータ解析から抽出された増悪因子と介入可能な予後悪化因子との整理して、有効なモデルを構築することが必要と考えられる。						